

# 建設業の魅力に触れる

## 鳥取工高生、工事現場見学

鳥取工業高(鳥取市)の生徒が10月30日、トンネルや河川など県東部の工事現場3カ所を見学し、建設業の仕事の魅力と技術の粋を学んだ。

材の確保と育成に取り組み、県建設業協会が、業界に対する理解を深め、進路選択に生かしてもらおうと実施。土木、建築を学ぶ建設工学科1年生の37人が参加した。

若校町の国道482号で整備が進む「わかさ氷ノ山トンネル」(約1.2km)では、既に貫通している坑内に入り、工事発注者の八頭県土整備事務所の職員や施工業者からトンネ

日刊 建設工業新聞 2018年(平成30年)11月1日(木)

鳥取工業高等学校

### ICT施工など

#### 現場見学会開く

県内東部区域の工事現場見学会が30日、鳥取工業高等学校の1年生37人を対象に開かれた。見学した工事は若桜町春米の国道482号(つくみバイパス)わかさ氷ノ山トンネル工事(交付金改良)、鳥取市福部町湯山の鳥取砂丘ビジター新築工事、鳥取市金沢の湖山川河川改修工事の3カ所。3カ所のうち、湖山川河川工事では施工者を代表して中信建設の中村砂雄専務、発注者から県鳥取県土整備事務所・河川砂防課が現場を丁寧に紹介した。

同工事の延長は535m。湖山川拡幅に伴う掘削工、築堤盛土工にICT建機を活用しており、工期は来年3月末。

生徒らはICT建機による掘削工の実演を見学。県は建設現場における生産性の向上を目的にICT活用を促進している。河川砂防課は「ICTを積極的に活用することによって人員、経費を削減できる」とICT活用について説明した。

中村専務は「新しい技術に触れることで建設業に興味を持ってほしい」と話していた。



現場を見学する生徒(31日、鳥取市金沢)

ルの施工方法などについて説明を受けた。

生徒たちは、交通難所を解消し、安全な通

行が確保されるトンネル開通効果をイメージ。インフラを整備する建設業の仕事の意義を再認識した様子だった。(津田一典)



トンネル工事現場を見学する生徒たち